

授業デザイン FIRST STEP Vol.1 —小学校外国語科「Small Talk」編—



1 Small Talkとは？

Small Talk とは、高学年で設定されている活動です。2時間に1回程度、帯活動で、あるテーマのもと、指導者のまとまった話を聞いたり、ペアで自分の考えや気持ちを伝え合ったりします。また、5年生は指導者の話を聞くことを中心に、6年生はペアで伝え合うことを中心に行います。

『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』(p.130)より



2 Small Talk を行う意図

(1) 既習表現を繰り返し使用できるようにしてその定着を図る

学習指導要領に基づく外国語科の指導においては、言語材料の定着に重点が置かれています。したがって、児童が、現在学習している単元及び当該単元より前の単元で学習した言語材料を繰り返し使用できる機会を保障し、当該言語材料の一層の定着を目指すことが求められています。

(2) 対話を続けるための基本的な表現の定着を図る

「話すこと」によるコミュニケーションを行う際に「対話を続けるための基本的な表現」は欠かすことができません。私たちは母語で対話をするときに、相手の話した言葉を繰り返して話し手が伝えたい内容を確認したり、相手の話したことに何らかの反応を示したりすることで対話を続けています。小学校高学年では、「対話を続けるための基本的な表現として、例えば以下の6点を指導することが考えられます。

対話の開始	対話の始めの挨拶 Hello. / How are you? / I'm good. How are you? など
繰り返し	相手の話した内容の中心となる語や文を繰り返して確かめること 相手:I went to Tokyo. 自分:(You went to) Tokyo. など
一言感想	相手の話した内容に対して自分の感想を簡単に述べ、内容を理解していることを伝えること That's good. / That's nice. / Really? / That sounds good. など
確かめ	相手の話した内容が聞き取れなかった場合に再度の発話を促すこと Pardon? / Once more, please. など
さらに質問	相手の話した内容についてより詳しく知るために、内容に関わる質問をすること 相手:I like fruits. 自分:What fruits do you like? など
対話の終了	対話の終わりの挨拶 Nice talking to you. / You, too. など

『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』p.84<図表1>対話を続けるための基本的な表現例より

3 Small Talk の進め方の例

- ① 指導者と児童で簡単なやり取りをしながら話題を導入します。
- ② 児童同士でやり取り(1回目)をします。
- ③ 1回目のやり取りを基に指導をします。
児童が伝えたくても英語で表現できなかったことを、既習表現に結び付けられるようにヒントを出します。また、学級全体でどのように表現すればよいか考えます。
- ④ 相手を替えて児童同士でやり取り(2回目)をします。
既習表現の活用を促します。

詳しくは『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』を御参照ください。

■授業研究編Ⅱ

■実習編

